

三菱重工業株式会社 総合研究所の概要

構成 本誌編集部

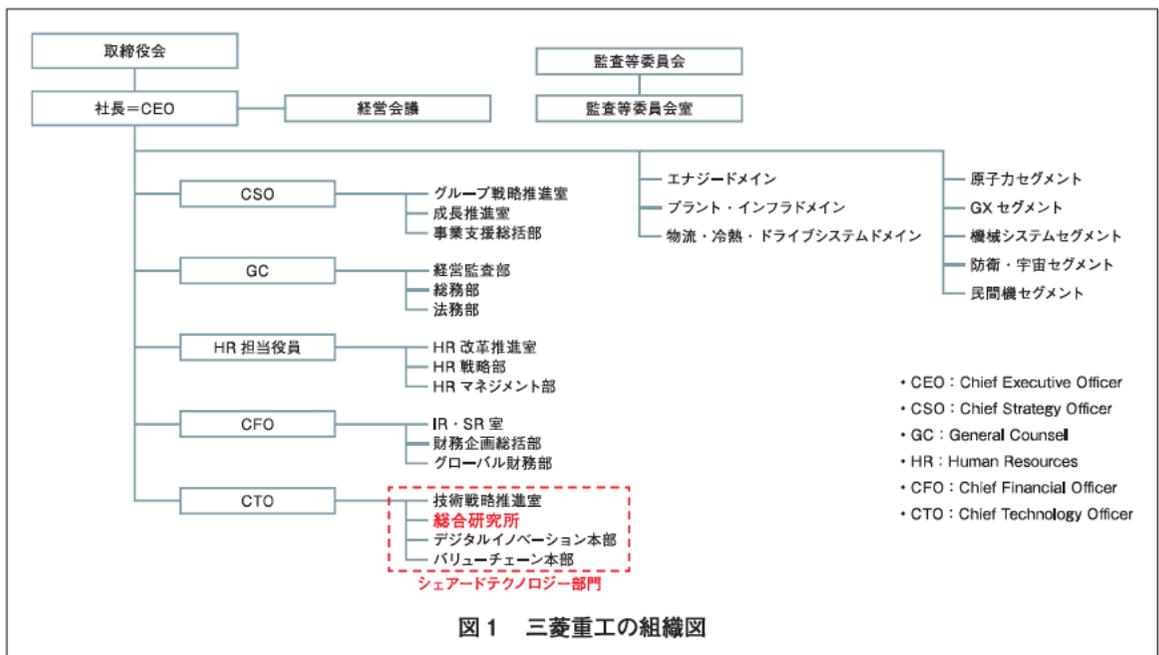
はじめに

三菱重工グループは、発電システム、CO₂回収、交通システム、産業・物流機器、造船、航空、防衛、宇宙など500以上の製品を保有しており、その技術領域は多岐にわたる。三菱重工業(株)総合研究所は三菱重工グループの製品全体に関わる基盤技術を横断的に支える研究組織である。

本稿では、三菱重工業(株)総合研究所の組織体制、研究内容などを紹介する。

三菱重工 総合研究所の研究開発体制

当社の組織図を図1に示す。当社には事業部門（ドメイン・セグメント）とは独立したCTO（Chief Technology Officer）統括組織として「シェアードテクノロジー部門」が設置されている。シェアードテクノロジー部門は、「技術戦略推進室」「総合研究所」「デジタルイノベーション本部」「バリューチェーン本部」で構成され、三菱重工グループ全体の研究開発、マーケティング、調達等の機能を横断的に融合



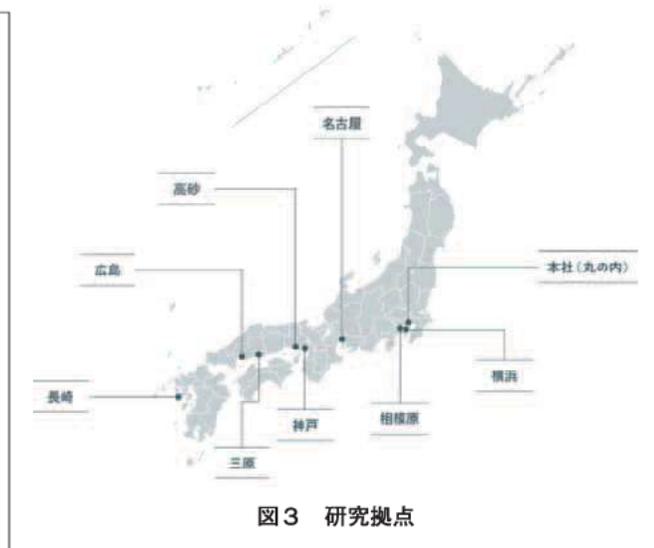


している。

総合研究所は三菱重工グループの技術開発・製品開発を支えるグループ唯一の中核的研究組織である。グループ内の事業部門と緊密に連携し、当社グループ全ての製品の競争力を高める技術開発や次世代を担う新技術・新製品の開発に取り組んでいる。

三菱重工の研究所の歴史は古く、1904年に長崎造船所内に設置された化学分析室・材料試験室（長崎研究所の前身）、1908年に神戸造船所内に設置された化学分析係（高砂研究所の前身）に端を発する。その後、広島、横浜、名古屋にも研究所が設置され、1964年の3重工合併以降約50年間、長崎、高砂、広島、横浜、名古屋の5地区に研究所を配する体制で運営されてきたが、技術シナジーの強化やより効率的な研究開発体制の構築を目的に、2015年に現在の総合研究所に集約・統合された。

総合研究所の組織図を図2、研究拠点を図3に示す。総合研究所は、技術分野ごとに組織された10の要素研究部、製品軸での研究開発を主



体とする六つの研究推進部、オープンイノベーション推進室および業務部で構成されている。

研究推進部は主要製品群ごとに構成された五つの部と製造技術を専門に扱うファクトリーイノベーションセンターからなり、事業部門からニーズを受け取り、研究部門へ橋渡しして製品開発を成功に導く役割を担っている。

要素研究部では、技術領域ごとに先進技術の探索と獲得を進め、「テクノロジーユニット」